家　庭　科

浅　田　幸　子

1　家庭科の本質について

家庭科では、教科の本質を次のようにとらえている。

> 家族の一員として家庭生活を向上させようとすること

家庭科は家族や家庭生活を主な対象として学習いる。社会の変化にともなって、家庭生活は多様化しているが、家庭は、家族が互いに尊重し合い協力し合ってよりよい生活を営んでいこうとしているところである。その中で、子どもも家族の一員として、自分なりの発想や努力によって家庭生活を向上させようとすることは、生活の主体者として大切なことであると考える。

家族の一員として家庭生活を向上させようとすることは、子どもが家族の一員であることを自覚し、生活の場である家庭生活について生活の主体者として子どもなりの思いや願いを描いて生活の課題を改善したり、よりよい生活をめざして実践を続けたりすることである。

つまり、家庭科を学ぶのは、単に生活に必要な知識・技能を身につけるだけではない。自分の生活を自分らしく創造してみたい、あるいは、家族の役に立って喜んでもらいたいという製作や活動への意欲、向上心、自立心、思いやりの心などをもって家庭生活の向上を願うことや、そのために必要な新しい知識・技能を身につけることが大切なのである。これが、家庭科で求める「知性と教養」を身につけていくことであると考える。

家庭生活の向上をめざす主体的な学習活動を進めることで、子どもは自らの課題を明確にしたり自由な発想で試したり、工夫したりして、家庭生活への見方・考え方を一層深めていくであろう。

以上のことから、家庭科の本質は、「家族の一員として家庭生活を向上させようとすること」であると考える。めまぐるしい社会の変化により家庭の機能は縮小してきていると言われているが、家庭生活の向上をめざす生活の主体者は、将来においても自分の家庭を大切にすることにつながると考える。

2　家庭科の「学び」について

本質を獲得するために、家庭科の「学び」はどうあればよいのか、次に考える。

子ども一人一人が自分の家族や家庭生活を見つめると、そこには今まで気づかなかった日々の生活が見えてくる。そして、なぜそうなっているのか、もっと詳しく知りたい、自分もできるようになりたいなど、家庭生活への関心をもち始め、やがてそれが課題としてはっきりと把握することになる。しかし、今までの経験や知識・技能だけでは解決ができず、生活の向上は望めない。

子どもは自分の知りたいことやできるようになりたいことを、体験を通して獲得していく。その過程で、家族への思いを新たにしたり、自分にできることを増やしたり生活を改めようとしたりする。この過程を経て、家族や家庭生活への理解は一層深まり、身につけた新たな知識・技能で生活は向上するのである。分かったことやできるようになったことを家族や全体に表明し、認められるなら、さらに自信をもって家庭生活にかかわっていくであろう。

以上の一連の「学び」の中で、「知性と教養」は互いに働き合い高められていくと考える。これまで述べたことを図に表すと、家庭科の「学び」は、図１のようになると考える。

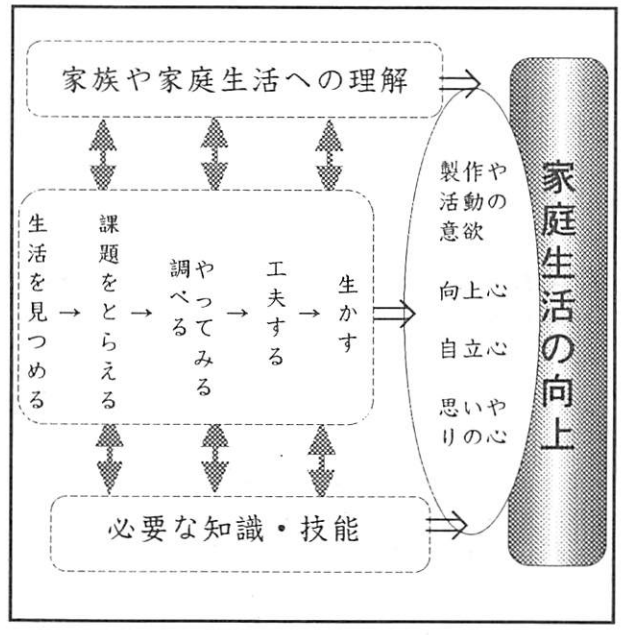


図１　家庭科における学びの構造

3　本質と「学び」に基づく基礎・基本について

家庭科の基礎・基本については、今まで得た「知性と教養」をもとに、家庭生活を見つめ、よりよい生活を築こうと自分なりに考えたり、試したりして主体的にかかわり、創意工夫して解決する能力が大切であると考えている。

例えば、「目玉焼きを焼く」という技能は、フライパンを使って卵を焼くことは共通しているが、どのように焼くかは、子どもの思いによって一人一人違うのである。「白い膜がはったように焼きたい」「固く焼きたい」「黄身がとろりとしたやわらかめに焼きたい」など、自分や家族の好みを考え一人一人が調べたり考えたり、試したり工夫したりしながら意欲的に取り組み、自分の課題を解決していく力である。

そこで、家庭科における基礎・基本を次のように考えた。

自分や家族のよりよい生活をめざし　主体的にかかわり　創意工夫しようとすること

家庭科の学習で、基礎・基本が獲得されることにより、子どもは小学生なりに一人の生活者として家族を思いやり、それぞれの生活を向上させようとする生き方につながるものと考える。

4　単元を構想するにあたって

家庭科における自己の「学び」を深めるとは、家族や家庭生活に対する理解を深め、実践力を高めていくことであるととらえている。家族や家庭生活への思いを変容させ、さらにはそれを実践に結びつけることができるようになれば、本質である「家族の一員として家庭生活を向上させようとすること」にもつながっていくと考える。

そこで、次の視点にもとづいて単元を構成していく。

(1)　家族や家庭生活へ目を向けるための働きかけを促す

子どもの家庭生活の実態は様々である。また、毎日の生活の場であっても興味関心の寄せ方は一様ではなく、多くの子どもは無意識に生活している現状である。そこで、毎日の生活では気づいていないことや見えていないことに対して関心を向けたり、調査、観察する期間を設けたりして、まず、自分の家庭生活を見つめることから始めたい。また、身近な生活から子どもにとって驚きや意外性のあることなどを用意して、共通の出会いを工夫し、それぞれが家庭生活に対する自分なりの見方・考え方を持てるようにしていきたい。

(2)　一人一人の素朴な思いや願いの表出を促す

自分の家庭生活をそれぞれが見直して気づいたことが学習のスタートになることがある。自分の目で改めて見つめることによりふだん何気なく生活していたことに対して驚きや共感、疑問などをもつであろう。また、自分でできるようになりたいという願望も生まれるであろう。

そこで、個の思いや願いを表出できる場を設定し、子どもが発する素朴なつぶやきや考えをを大切にしていきたい。それらは、新たな自分の生活を作り出そうとする思いにつながるからである。

(3)　実践的・体験的な場の設定とお互いの見方・考え方の共有化を図る

子どもの家庭生活は様々であり、お互いに考えていることがまちまちで分かりにくかったり、実際の生活とかけ離れたものになってしまったりする恐れがある。そこで、実際に試してみたり、実践的・体験的な活動の場を設けたりしながら、お互いの見方考え方を深め合うようにしたい。

自分の見方考え方が他から認められることにより、子どもは自分の追求活動に自信を持つとともに、家族や家庭生活への理解を深めると思われる。

(4)　自己の高まりの自覚を促す

自分の生活を見つめた当初の思いが、どのように変容したかを自覚することは、家族や家庭生活への思いが深まるとともに、自分で解決した自信につながると思われる。そこで、家族や家庭生活に対する新たな思いや自分で生かしてみようと思ったことなどを記録に残しながら学習を進めたい。

また、学習したことを家庭で実践したときには、その様子を記録したり互いに交流したりする自己評価や相互評価を効果的に組み入れていきたい。人から認められたり家族から励まされたりすることで子どもはさらに自信をもって製作や活動に励むと考える。

5　実践例　－6年－

(1)　単元名　　見直そうわたしの衣生活

(2)　目　標

・衣服に関心をもち、自分の衣服の着方を見直し、よりよい着方を工夫しようとする。
・日常着の洗濯の仕方が分かり、進んで実践しようとする。

(3)　指導にあたって

本単元における基礎・基本について

毎日、私たちは衣服を着て生活している。子どもは、朝起床して制服に着替え登校し、学校では体操服に替えたり、掃除の時に上着を脱いだりしている。5月末には衣替えの時期となり、冬服から夏服へと変わっていく。また、着ている衣服が汚れたりぬれたりした時に取り替え、洗濯をして、また次に気持ちよく着ることができるようになっている。このように、自分では何回も着替えているにもかかわらず、汚れた衣服は家族がまとめて洗っていたり、季節に応じて衣服が用意されていたりするなど、子どもの衣生活は家族に任されており、自らがかかわって工夫した着方をすることは少ないのが現状である。

6年生ともなると、子どもは衣服に関して個性を表すようになってくるが、ここでは、衣服にはいろいろな種類があり、季節や生活の中のそれぞれの活動に合うよう布地や形が工夫されていることなどを理解した上で、目的に合った衣服を選び、自分で着方を工夫したり、着たあとは自分から手入れをしたりして気持ちよく着る習慣を身につけることを大切にしたいと考える。

そこで、本単元では自分の衣服に関心をもち、着替えていることや気持ちよく着るために気をつけていることなど現状を見つめた時に、自分がもった問題を解決することで、衣服への理解を深め、よりよい着方を工夫していこうとすることを基礎・基本ととらえた。また、本単元では、知性の面で資質・能力の向上を考えると、衣服の表示などを見て着たり洗濯したりして気持ちよい衣生活を営もうとする実践力を培うことができると考える。

単元計画（総時数8時間）

主な活動と内容	学びを深めるために	主な評価ポイント
1　着替えることに関心をもち　なぜ着替えるのか考える ・よごれたときやぬれたとき ・～へ行くとき ・暑いとき　寒いとき ・思ったより多く着替えているなあ ・着替えたら　洗濯している わたしの衣生活を　見直そう ・なぜ着替えるのだろう　・洗濯についても知りたい	①②	衣生活を見つめ直し　自分の思いをもったり課題をつかんだりすることができたか
2　課題について調べ　発表する 夏服と冬服のちがいは なぜパジャマに着替えるの 体操服はどこが違うの 洗濯の仕方は服によって違うの ドライクリーニングに出すのはどうして　他	③④	調べたり発表を聞いたりしながら　よりよい着方を工夫しようとしているか
3　洗濯の仕方について話し合い　洗濯実習をする ・取扱い絵表示	③④	洗濯実習したことを生かそうとしているか
4　実践の様子を交流する 	④	

学びを深めるために

① 衣生活への働きかけを促す

毎日衣服を着て生活していること、また、季節や活動に合わせて着替えていることなど、子どもは案外無意識のうちに行なっている。ましてや衣服の手入れや管理に関しては親任せであることが多い。そこで、着替えることに視点をあてて生活を見つめる場を設定し、朝、パジャマから制服に着替えるだけでなく、学校でも着替えていることや、天候や目的にあわせて着替えるなど思った以上に多いことに気づかせたい。

② 一人一人の素朴な思いや疑問の表出を促す

自分の衣生活を見つめて気づいたことの中に学習課題がある。今まで習慣上着ていたことでも改めて見つめてみると「思ったより多く着替えている」「どうして・・・」「何かわけがありそう」など素朴なつぶやきが生まれると思う。それらを互いに出し合い広げたり深めたりする場を大切にしたい。そして、個々の疑問を追求すべき課題に高め、分類してグループを設定し、解決への意欲づけにしたい。

③ 主体的な課題追求の場の設定と見方・考え方の共有化を図る

自分たちで考え、調べたり実験したりする活動を通して課題を解決していく過程で、子どもが自らの力で必要な情報を探し出したり、見通しをもって追求したりできるように時間を保障し、衣服を深く見つめることができるようにしていきたい。

また、発表では実演などを交えて聞き手に分かりやすく説明したり、聞くときは自分の衣生活と関連づけて考えたりする場を設け、着ることの意義を改めて考え直すようにし、気持ちよい衣生活へとつなげていきたい。

④ 自己の高まりの自覚を促す

着ることや着替えることなどに対する子どもの思いを記録に残し、学習することによって自分の衣生活に対する理解が深まったり、できることが増えたり、家族への感謝の思いが強くなったりしたことを自覚できるようにしたい。衣生活に対する思いの高まりを自覚することは、実践への意欲づけに結びつくと考える。

(4) 本単元における授業の実際と考察

５月は、春から夏への季節の変わり目、そろそろ衣替えの時期でもある。この時期に本単元を実践し子どもたちの衣服への関心が高まることを願った。まず、着替えることから自分の衣生活を見つめ直し、その後自分の課題をもって解決したり、分かったことを交流しあったりする過程で、子どもがどのような思いをもっていたのかを追っていく。そして、着ることに関する認識を深め、よりよい着方を工夫しようとする実践意欲につながったかを、主な評価ポイントにそって考察していく。

① 衣生活を見つめ直し、自分の思いをもったり課題をつかんだりすることができたか

高学年になると、衣服の外観に敏感な子もいるが「着る」ことに対する関心は、「食べる」ことに比べると低いので、５月という季節柄まず「着替える」ことに視点をあて学習に入った。
朝パジャマから制服に替え、帰宅してふだん着に替えるが、「他にもあるかな」と問いかけたところ、子ども達は、体育の授業の時は体操服に、そうじの時は上着を脱いだりスカートをとったり帽子をかぶったりする、調理実習の時はエプロンをつける、遠足の時は長袖、長ズボンで行く、プールに入るときは水着に、スキーの時はスキーウェアーになる、など身近なことを次々に出してきた。また、暑い日や寒い日に脱いだり重ねたりしているし、汚してしまったときや雨や水でぬれたときも着替えているよと、どんどん広がってきた。さらには、特別な時として発表会やおでかけ、お正月などにも着替えていることに気づき、子ども達は着替えの多さに驚いた様子であった。

次に、「どうして着替えるのだと思う？」と尋ねたところ

・運動や仕事をするときなど、動きやすいからだろう
・けがをしない、風邪をひかないなど自分の体を守るためだろう
・自分も相手も気持ちよく過ごすためだろう

などの考えが出された。「ぼくは、いつも何も考えずに着替えていたけれど着替えにも１つ１つわけがあるんだ、すごい」や「服はこのようなわけを考えて作られているんだ」などの感想も出

され衣生活を見直すきっかけになったと考える。しかし、着替えるのはめんどうだ、そのままでもいいのではないのかという思いや替えた制服をクリーニングに出すけれどどうして？などの疑問を抱いている子もいた。そこで、衣生活に関して疑問に思っていることや調べてみたいことなどを出し合ったところ、次のようになった。

・夏服と冬服にはどんな違いがあるのか・・・12名
・なぜ寝るときにパジャマに着替えなければならないのか・・・6名
・なぜ体育の時は体操服なのか・・・6名
・下着とふつうの服ではどちらが水をよくすうのか・・・3名
・汚れや汗はなぜそのままにしないのか・・・5名
・洗剤を使うとなぜきれいになるのか・・・4名
・クリーニングに出すのはどうしてか・・・5名
・服によって洗い方は変わるのか　よくおちる洗い方は・・・3名
・どいう服にどういう洗剤があうのか・・・2名
・洗濯機と手洗い　洗濯機とクリーニング店の違いは・・・3名
・どうして制服を着るのか・・・3名　　（複数回答）

調べたいことは・・・

写真のように、それぞれが自分の思いや調べてみたいことをカードに書いて黒板に提示した。5月には珍しいほどの暑い日が続いたこともあって、冬服と夏服への関心が最も高く、人数が集中したのでさらに詳しく尋ね、布地の風通しや保温のこと、布地の厚さや織り目のこと、色・形・工夫のことに分かれるなどして2～5名の課題別グループを作ることができた。

このように、着替えることからスタートし衣生活に関して日頃から疑問に思っていたことも含めてそれぞれの思いをカードに書いて出し合うことで、子ども一人一人のこれから調べたい課題は明らかになったといえる。

②　調べたり発表を聞いたりしながら　よりよい着方を工夫しようとしているか

自分の課題がもてたら、次は見通しをもって追求していく段階である。できるだけ衣服そのものや布地などを観察したり調べたりする体験的な活動を通して、衣服に対する理解を深めたいと考え、調べ方をよく聞いて相談に応じたり支援を試みたりした。

さっそくA児は、水の吸い込みを見たいと布を3種準備（下着　ブラウス布地　タオル）してきた。大きさもそろっている。布をビーカーの水に同時に浮かべて沈んでいく様子を見たり、色水にそっとたらして吸い上げ方を比べたりの試行錯誤である。B児は、洋服を袋いっぱい持参しルーペや簡易顕微鏡で布目を観察している。いずれも、身近な素材を使って自分の目や手で確かめようとしている．この調べ方のすばらしさを全体に広めてみた。すると、冬のように寒くして洋服の暖かさを調べたいと思っているグループが相談に来た。また、服がぬれていると寒く感じることを実験したい子も来た。フラスコの中に温度計を入れて測定するヒントによって、このグループの追求活動は勢いを増したようであった。

クリーニング屋さんへインタビューに行きたいと思っている子らは、教室で質問事項を考え、帰宅してから出かけていた。一方、洗剤の空き箱を用意し、衣類についている取扱い絵表示と見比べたり、図書室の参考書で洗剤と布地の関係を詳しく調べたりするなど、グループごとに調べ活動は着々と進んでいった。

冬服は風をあまり通さない
夏服の方がよく風を通す

ぬれている方は温度がどんどん下がっていく

この服にはどの洗剤がよいのだろう

次は、調べたことを発表する場面の一部である。

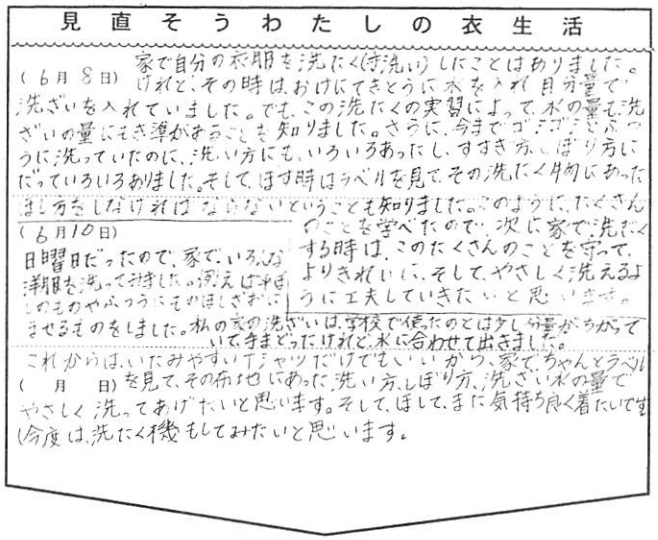
C1　私たちは、夏のTシャツと冬のフリースで暖かさや汗の吸いとりを調べました。
C2　このように温度計を入れて、風を送ったり冷蔵庫に入れたりして、中の湯の温度が下がる様子をグラフにしてみました。
C3　次に水をたらしてみます。（両方にスポイトで水滴を落としてみる）フリースは吸い込みませんね。
C1　わかったことは、Tシャツはよく汗を吸い、フリースは暖かいということです。夏には夏に向いた服、冬には冬に向いた服を着ようと思います。
C4　ぼく達は、なぜ寝るときにパジャマを着るのか考えました。
C5　（制服とパジャマの袖にスポイトで水滴を落とす.）
C6　次に、伸ばしてみます．制服は３ミリ、パジャマは７ミリです。
C7　最後についているものですが、制服はボタン、校章、名札、袖のボタンなど、パジャマはボタンだけ。

水のしみこみを比較

C5　パジャマを着るわけが分かったので、めんどうくさがらずに着たいと思いました。（中略）
T　きょうの勉強で、生活に役立てようと思ったことがありましたか。
C8　これから暑くなるけど、夏には夏に合った服を着ようと思いました。
C9　パジャマや体操服に着替えるのは習慣になっていたけれど、こんな意味があるんだなと思いました。
C10　今まで夏には夏の服を着ていたけれど、汗をかきやすいときに着たらよい服があるなんて初めて知りました。服を選ぶときには、これから考えようと思いました。
C11　服は、ちゃんと健康を考えて作られているなと思いました。（後略）

他の服と比較しての実演発表もあり、それぞれの衣服のよさをより鮮明にできたと考える。体操服はよく伸びること、下着は水をよく吸い取ることなど、目の前で見せられると、自分が体験したのと同じ効果があったと思われる。時間こそかかったが一人一人が実感的にとらえることで「着ること」に対する考え方は深まり、家族から言われるまま、またはしぶしぶ着替えていた子らも、自分の着方を見直し、よりよい着方をめざそうとしていることが発言内容から伺いしることができる。

③　洗濯実習したことを生かそうとしているか


見直そうわたしの衣生活

（6月8日）家で自分の衣服を洗たく(手洗い)したことはありました。けれど、その時は、おけにてきとうに水を入れ目分量で洗ざいを入れていました。でも、この洗たくの実習によって、水の量も洗ざいの量にもきゅうかがあることも知りました。さらに、今までゴシゴシふつうに洗っていたのに、洗い方にも、いろいろあったし、すすき方、ほす方にもいろいろありました。そして、ほす時はラベルを見てその洗たく物にあった干し方をしなければならないということも知りました。このように、たくさんのことを学べたので、次に家で洗たくする時は、このたくさんのことを守って、よりきれいに、そして、やさしく洗えるようにくふうしていきたいと思います。

（6月10日）日曜日だったので、家でいろいろな洗濯物を洗ってみました。ぬえるものやふつうにものほしざおにさせるものをしました。私の衣の洗ざいは、学校で使ったのとは少し分量がちがっていてきまどったけれど、水に合わせて出きました。

（　月　日）これからは、いたみやすいTシャツだけでもいいから、家でちゃんとラベルを見て、その布地にあった洗い方、しぼり方、洗ざいの量でやさしく洗ってあげたいと思います。そして、ほして、また気持ち良く着たいです。今度は、洗たく機もしてみたいと思います。

C子の実践

Tシャツの洗濯を手洗いで実習をした。子ども達は、家で洗濯を体験しているが、洗濯物の重さを測って洗剤の量を決めたのは初めてだったようである。全自動洗濯機では無理もない。これからは、洗剤の分量に気をつけて洗ってみたいと思った子が、36名中35名であったことからも、その驚きの大きかったことが分かる。

さっそく、次の日曜日に実習したC子も実は、今まで適当に洗剤を入れていた一人である。洗剤を計り、絞り方や干し方など、ちゃんとラベルを見てその布地に合った洗濯をさっそく家で実習し、学習したことを生かし記録している。そして、次は洗濯機もしてみたいと意欲的に結んでいる。

④　授業を終えて

以上のことから、本単元の基礎・基本は獲得され、子どもの実践意欲は高まってきていると考える。それは、衣生活に対する自分の思いを記録したものを見る限り、どの子も着るときや洗濯するときに学習したことを生かそうとする姿勢が見られたからである。また、本単元は、課題別グループに分かれて学習したので、どの子も課題解決に向け意欲的に取り組んだ。体験を通して得たことは、今後大きな自信となり、よりよい衣生活を営もうとする力になると思われる。